

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 6 月 21 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (6/21 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m ³ /h	34.5	106.1 kPa abs	A系:0.01 vol% B系:0.04 vol%
		給水系：約 3.5 m ³ /h			
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 5.2 m ³ /h	47.9	5.38 kPa g	A系:0.34 vol% B系:0.34 vol%
		給水系：約 3.0 m ³ /h			
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 4.8 m ³ /h	52.3	0.24 kPa g	A系:0.18 vol% B系:0.17 vol%
		給水系：約 3.8 m ³ /h			

*:絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【1号機】・6/21 原子炉格納容器ガス管理システムの希ガスモニタにて確認したキセノン 135 は、 $1.3 \sim 3.2 \times 10^{-3} \text{Bq/cm}^3$ であり、再臨界判定基準の 1Bq/cm^3 を超えていないことを確認。

【2号機】・6/21 原子炉格納容器ガス管理システムの気体のサンプリングを実施。分析の結果、キセノン 135 は当該システム入口でキセノン 135 が検出限界値 ($1.0 \times 10^{-1} \text{Bq/cm}^3$) 未満であり、再臨界判定基準である 1Bq/cm^3 を超えていないことを確認。また、希ガスモニタにて確認したキセノン 135 は、検出限界値 ($2.3 \sim 2.4 \times 10^{-1} \text{Bq/cm}^3$) 未満であり、再臨界判定基準の 1Bq/cm^3 を超えていないことを確認。

【3号機】・6/21 原子炉格納容器ガス管理システムの希ガスモニタにて確認したキセノン 135 は、検出限界値 ($3.4 \times 10^{-1} \text{Bq/cm}^3$) 未満であり、再臨界判定基準である 1Bq/cm^3 を超えていないことを確認。

・6/21 圧力抑制室における放射線モニタの1箇所の指示値において、6/20 23:00 までの値は 0.20Sv/h で推移していたが、その後ステップ状に変化しながら徐々に上昇していき、6/21 5:00 時点では、 17.59Sv/h まで上昇した。当該モニタは原子炉格納容器雰囲気放射線モニタで、格納容器側2点と圧力抑制室側2点を計測しているものであり、そのうち圧力抑制室側の1点が指示値の上昇を示しており、他の計測点3箇所には変化は見られていない。上昇の傾向から、計装の不具合と考えられるため、6/21、点検を実施し、現場の検出器側に原因があることが判明。当該モニタの今後の扱いについては、現在検討中。なお、当該データについては、保安規定関連の監視対象外パラメータである。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (6/21 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	24.5
2号機	循環冷却システム	運転中	25.5
3号機	循環冷却システム	運転中	25.0
4号機	循環冷却システム	運転中	32

*各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘドヒドランジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	→	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	6/16 15:12 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	6/10 8:26 ~ 移送実施中

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (6/21 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	除染装置	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)
運転状況	運転中	運転中*	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転

*フィルタの洗浄を適宜実施。

- H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- H24/6/21 12:05 H1スキッド内のバルブ交換工事を行うために、セシウム吸着装置を停止。停止期間は約1ヶ月の予定。
なお、バルブ交換工事期間中は第二セシウム吸着装置による処理を継続予定であり、滞留水処理、原子炉注水については問題ない。

<5. その他>

- H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/6～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/14～ 港湾内の海底土拡散防止を目的として、固化土(被覆材)による海底土被覆工事の本格施工に着手。
- H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- H24/6/18 9:54 5号機の補機冷却海水系について、6/18から6/28までの予定でストレーナ駆動部の修理のため、停止。
これにより使用済燃料プール冷却系が停止するため、この期間中、使用済燃料プールの冷却は残留熱除去系により実施。その際、原子炉及び使用済燃料プールの冷却は残留熱除去系により交互に切り替えて実施するが、原子炉水温度は最大 60℃程度、使用済燃料プール水温度は最大 31℃程度と評価しており、温度管理の観点から問題はない。

以上